



うすき祈りの回廊『私の推しスポット3』

笹山昭義さん（うすき祈りの回廊ガイド）選出

大橋寺

開山以来、時の国司や住民に信仰され続けた長い歴史があること。又、ご本尊は665年に作られと伝えられ、創建時の僧侶から受け継いでいる。

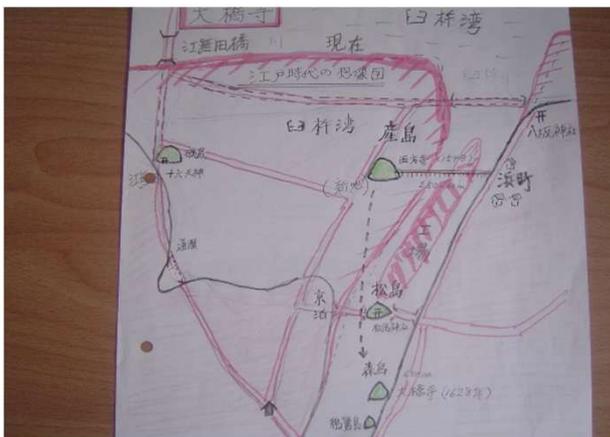
- ① 東大寺支院西方寺の僧祐範上人が阿弥陀尊像を奉じて西国を遍歴し、天文17年（1548）に白杵七島の産島に庵を結んだ。大友宗麟も帰依した。その阿弥陀尊像は665年に作られと伝えられ今も大橋寺の本尊となっている。（写真1）（写真2）
- ② 大友宗麟が参詣の便を図るため浜町から産島に250m余りの橋を架け、大橋寺と呼ばれた。
- ③ 産島が白杵城の石切り場になった為か1642年、稲葉一通公より森島を賜り移転した。（写真3）
- ④ 大友宗麟公夫人の墓や西南戦争で殉職した藤丸警部の墓、弾痕が鴨居に残っている。（写真4）



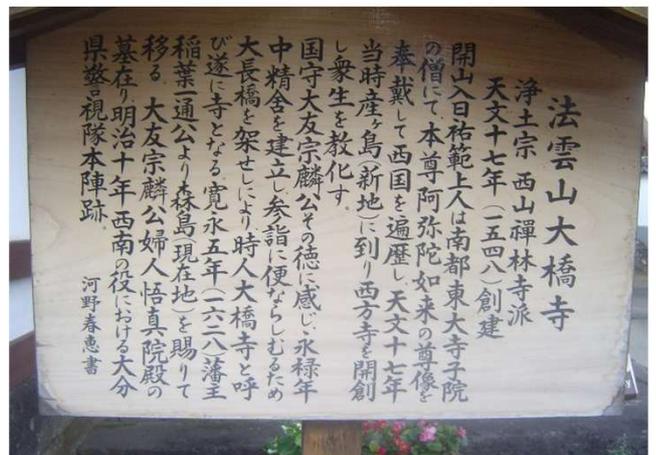
1（左の木立が現在の産島（新地））



2（中央がご本尊の阿弥陀如来像）



3（産島から森島移転の略図）



4（寺の前にある説明板）

水地天満宮創建が古く今も地区の鎮守として、親しまれている。特にご神木が素晴らしい。

- ① 創建が延長元年（923）と言われ、千年以上の間、住民の祈りの対象になっている。
- ② 神社前の潜龍梅から地元の清酒に龍梅と命名された。神社が地元に関わっている。
- ③ ご神木は柿とタブが途中で繋がった珍しい二本の木である。夫婦円満、恋愛成就のご利益があるといわれている。当地の私の知人ご夫婦は円満のご様子です。

* 訪問と撮影は 11月17日 12月6日 OAB テレビ画面より撮影しました。



(水地天満宮鳥居前)



(潜龍梅)



(ご神木の柿木とタブノキ)



(根元は二本、途中で結合している)

法音寺

創建以来、白杵の歴史に深く関わり、祈られたことによる。

- ① 1602年、白杵藩主稲葉一通公が細川忠興公の姫と結婚するにあたり姫の菩提寺として塩田に創建された。当時、白杵には日蓮宗の寺院がなかったことによる創建。(写真1)(写真2)
- ② 1642年、塩田から多福寺のあった現在地へ移転した。現在地は白杵城の裏鬼門に当たる南西の位置にあり、城が廃城となった明治6年までの間、白杵城は攻められなかった。即ち二天門には東を守る毘沙門天、北を守る持国天が安置され、東北にある城を守った。(写真3)
- ③ 明治10年(1877)の西南戦争の際は、白杵隊の野戦病院が置かれた。(高橋長一著「白杵物語」)
- ④ 三光堂は日名子実三の設計。鬼子母神の髪は処女の髪で今も伸びているとか。(写真4)



1 (本堂の日蓮上人像)



2 (山門にある細川家の家紋)



3 (二天門より白杵城を望む)



4 (三光堂)